

平成30年度 三河港物流効率化検討業務 実施概要 (三河港振興会 委託事業)

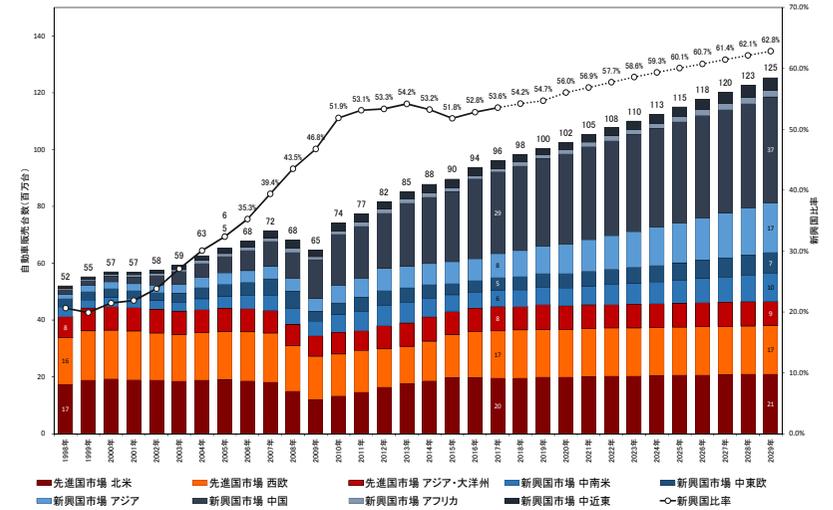
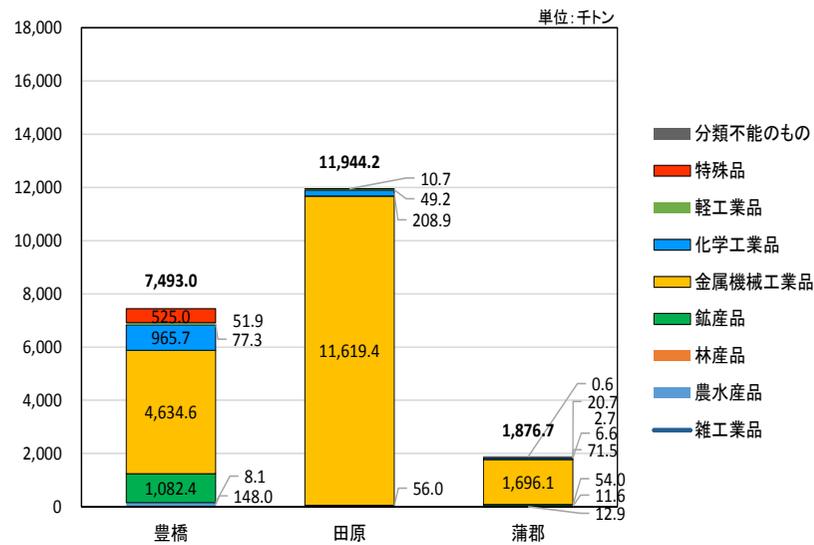
1. 業務の目的

三河港は、完成自動車を太宗貨物とする他、コンテナターミナルを有し、貿易額において国内でも有数の港湾であり、その競争力を維持・強化するには、港湾貨物の更なる効率化を図ることが必要である。

本業務は、三河港に関連する経済・社会情勢および物流について、現況および将来動向などを把握し、課題を抽出するとともに将来的な構想を検討するための基礎的な情報について整理し、併せて完成自動車の物流効率化のための方策、三河港周辺の道路整備による効果などを整理した。

以上より、三河港の取扱貨物の拡大と利用促進に向けた取り組みの方向性を検討するための基礎資料を取りまとめた。

2. 調査結果(一部抜粋)



■三河港の地区別の取扱貨物量

地区別の取扱貨物量をみると、豊橋地区は、749万トンで三河港全体の35%、金属機械工業品が62%を占める。田原地区は、1,194万トンで三河港全体の56%、金属機械工業品が97%を占める。蒲郡地区は、187万トンで三河港全体の9%、金属機械工業品が90%を占めている。

三河港全体の5割以上を田原地区が占めることから、田原地区の貨物動向が、三河港の貨物の変動に影響を与えうる。

■世界、地域別自動車販売台数長期推移

世界の自動車販売台数の1998年から2017年までの実績と、2018年以降2029年までの将来推計のデータを見ると、2017年時点の世界販売台数は9,500万台で、その数は、2029年には1億2,500万台へ拡大する。

販売地域は中国、アフリカ、中近東、中南米などの新興国が増え、新興国比率は2017年の53%から2029年には62%まで上昇すると予測されている。